第４章
育児休業制度の利用状況

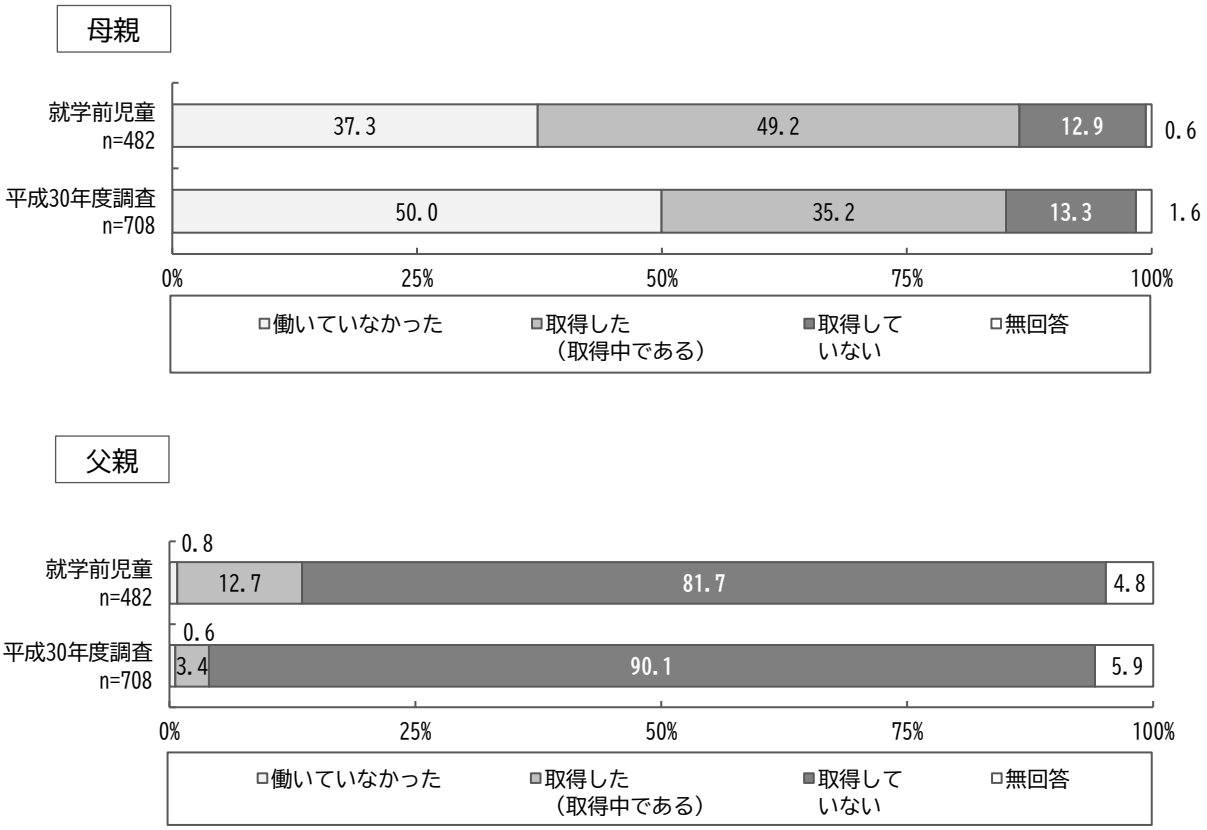
第４章　育児休業制度の利用状況

１　育児と仕事の両立支援制度について

（１）就学前児童の育児休業制度の利用状況

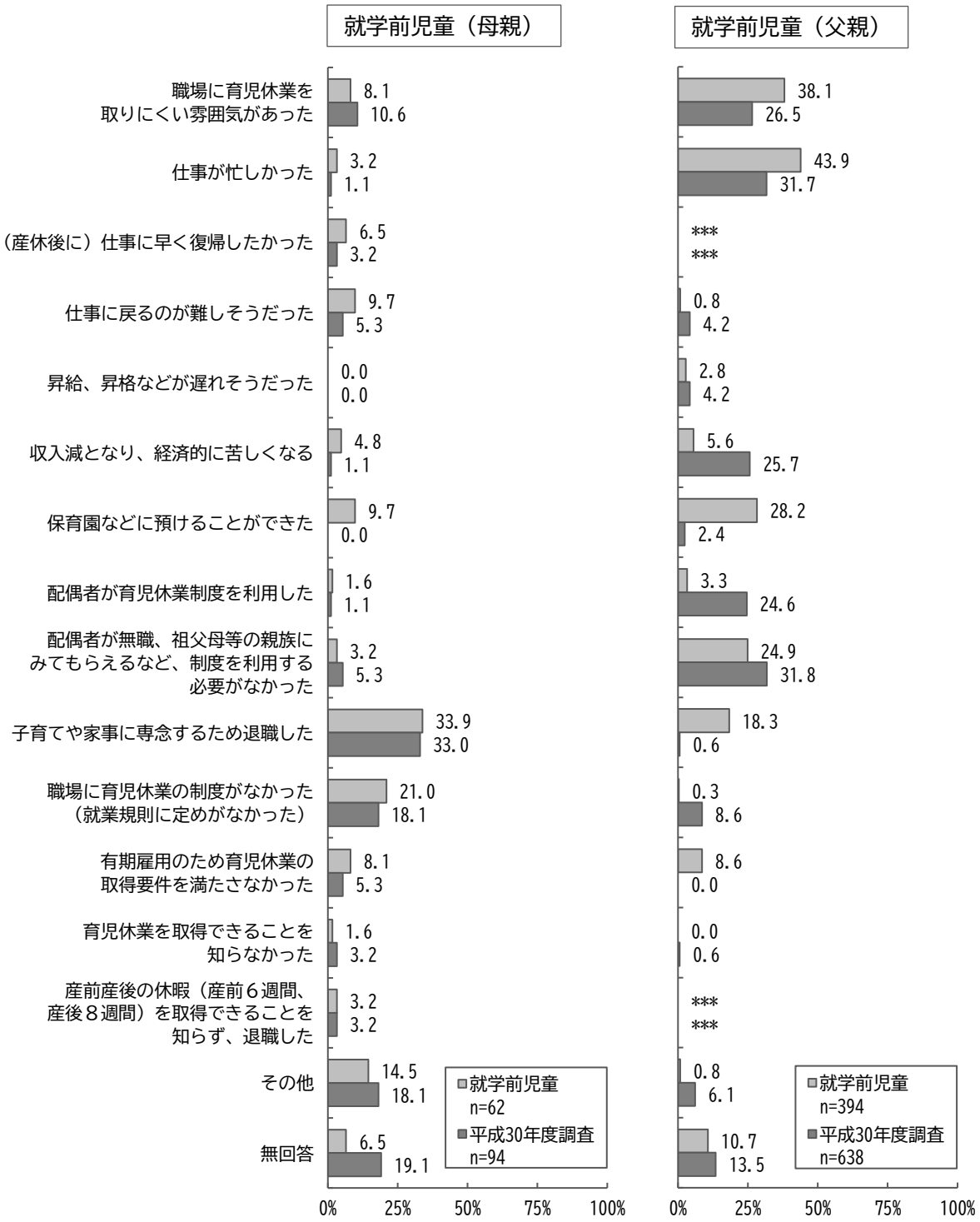
○育児休業制度の利用状況をみると、「取得した（取得中である）」母親では49.2%、父親では12.7%となっています。前回調査と比較すると、「取得した（取得中である）」母親は14.0ポイント、父親は9.3ポイント高くなっています。

問29　育児休業制度の利用状況（経年比較）



○育児休業を取得していない理由をみると、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」（33.9%）が最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」(21.0%)となっています。父親では、「仕事が忙しかった」(43.9%)が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（38.1%）となっています。

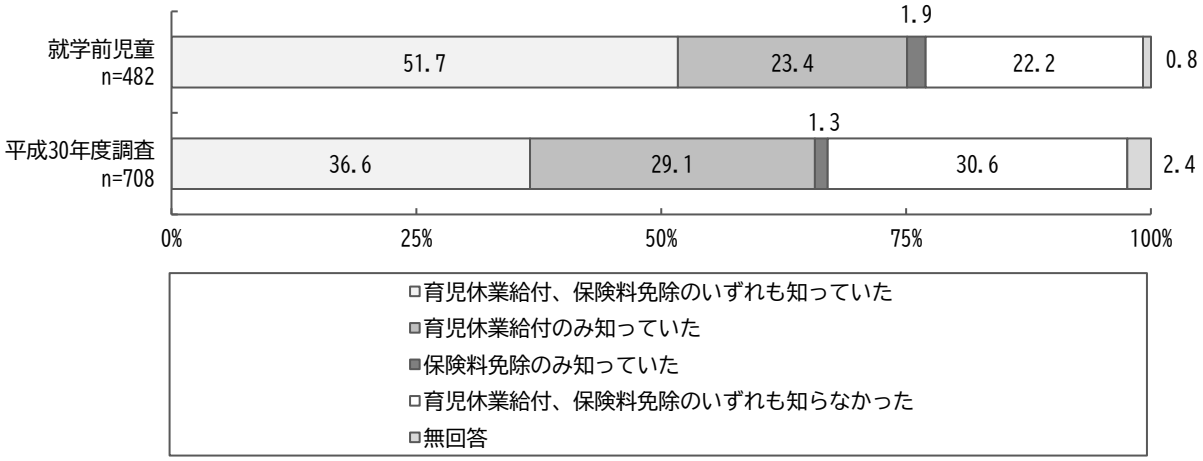
問29(1) 育児休業を取得していない理由(経年比較)



○国の両立支援制度（職場における育児休業給付と保険料免除）の認知度をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（51.7%）が最も高いものの、一方で「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」と回答した方が２割程度いる状況です。

○前回調査と比較すると、特に「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」の割合が増加しています。

問29-1　国の両立支援制度の認知状況(経年比較)

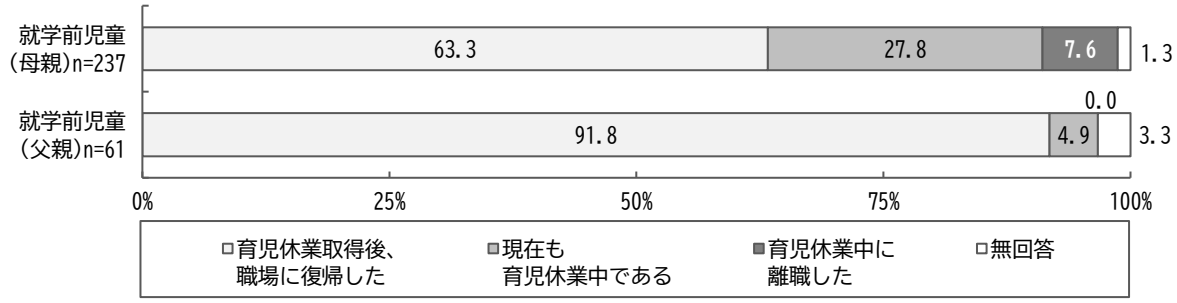


（２）職場復帰の状況

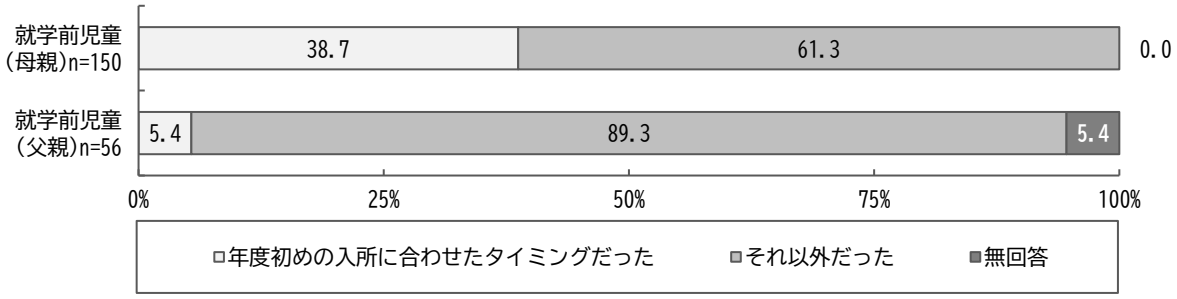
○育児休業取得後の対処をみると、母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」（63.3%）が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」（27.8%）、「育児休業中に離職した」（7.6%）となっています。父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」（91.8%）、「現在も育児休業中である」（4.9%）となっています。

○育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親、父親いずれも、「それ以外だった」（母親61.3%・父親89.3%）が高くなっています。

問29-2　育児休業取得後の職場への対処



問29-3　育児休業後に職場へ復帰した時期

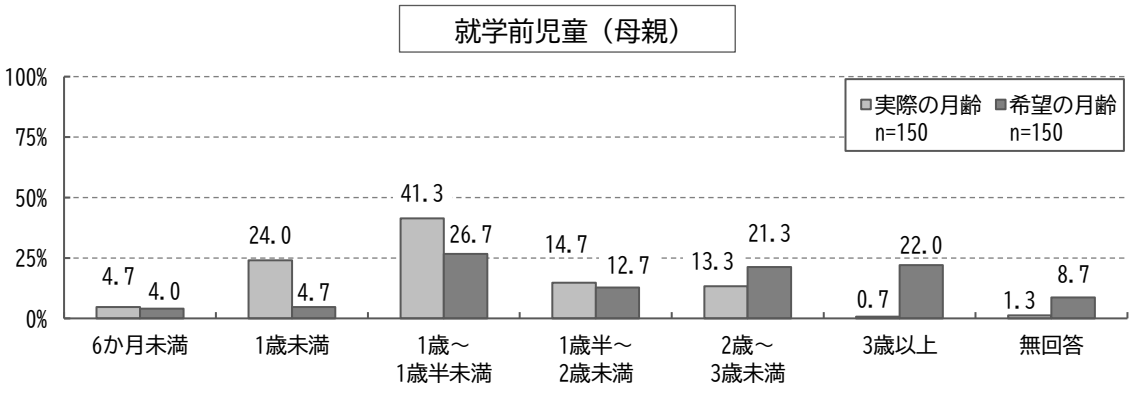


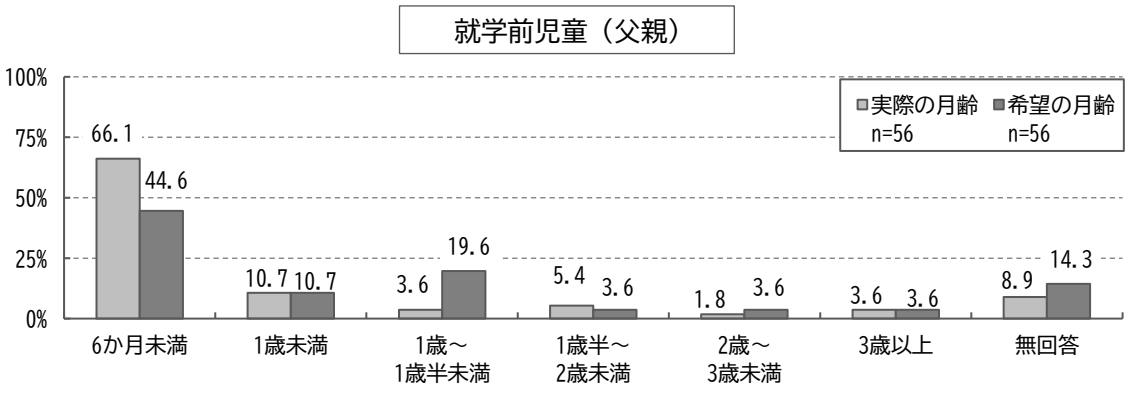
○母親が育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望の月齢をみると、いずれも「１歳～１歳半未満」（実際の月齢41.3%、希望の月齢26.7%）が最も高くなっています。また、希望する期間のうち、「３歳以上」を希望した母親は22.0%となっています。

○父親では、実際の月齢、希望の月齢ともに「６か月未満」（実際の月齢66.1%、希望の月齢44.6%）が最も高くなっています。

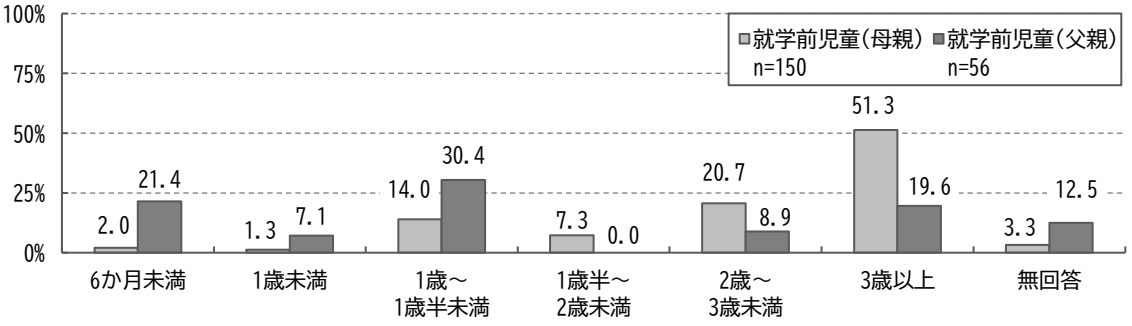
○３歳までの育児休業制度があった場合に取得を希望する子どもの月齢をみると、母親では「３歳以上」（51.3%）、父親では「１歳～１歳半未満」（30.4%）が最も高くなっています。

問29-4　育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢





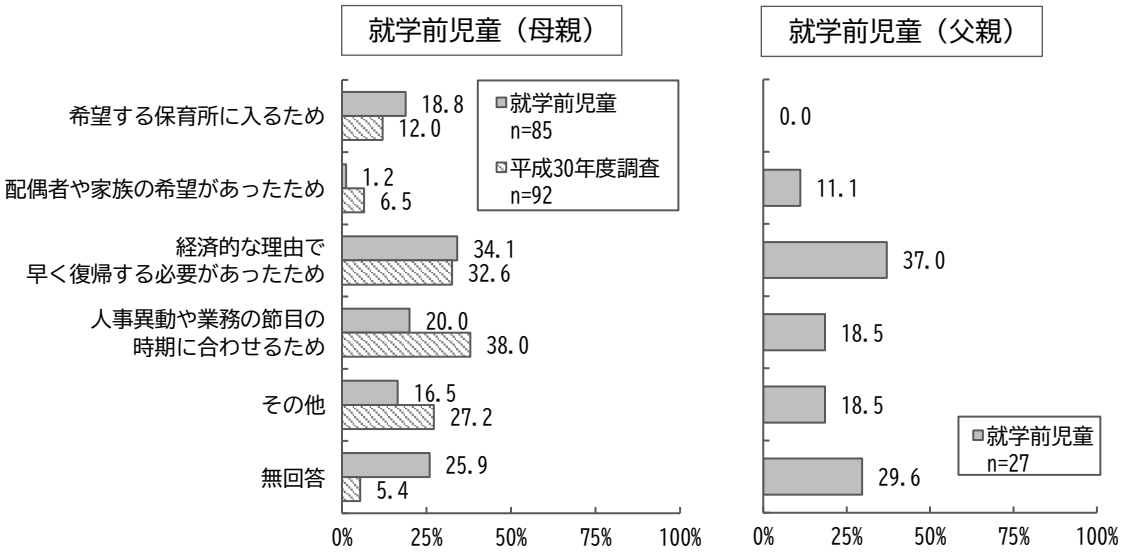
問29-5　3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望する月齢



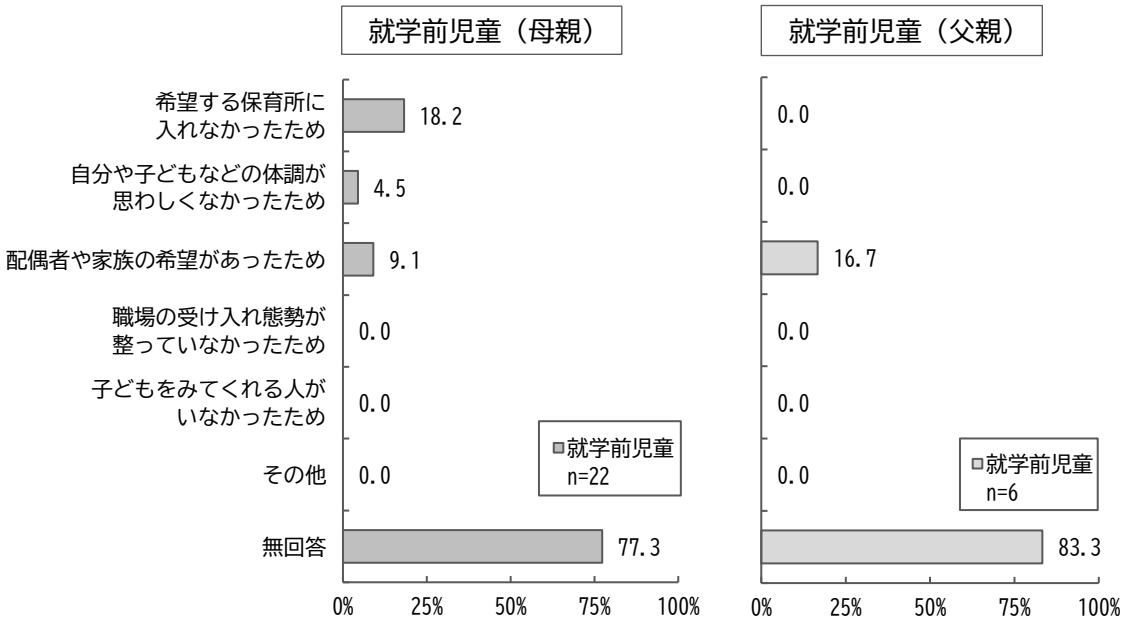
○育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由をみると、母親、父親いずれも「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（母親34.1%・父親37.0%）が最も高くなっています。

○「希望の時期」より遅く職場復帰した理由をみると、母親では、「希望する保育所に入れなかったため」（18.2%）、父親では「配偶者や家族の希望があったため」（9.1%）が最も高くなっています。

問29-6(1) 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由



問29-6(2) 育児休業から「希望の時期」より遅く職場復帰した理由

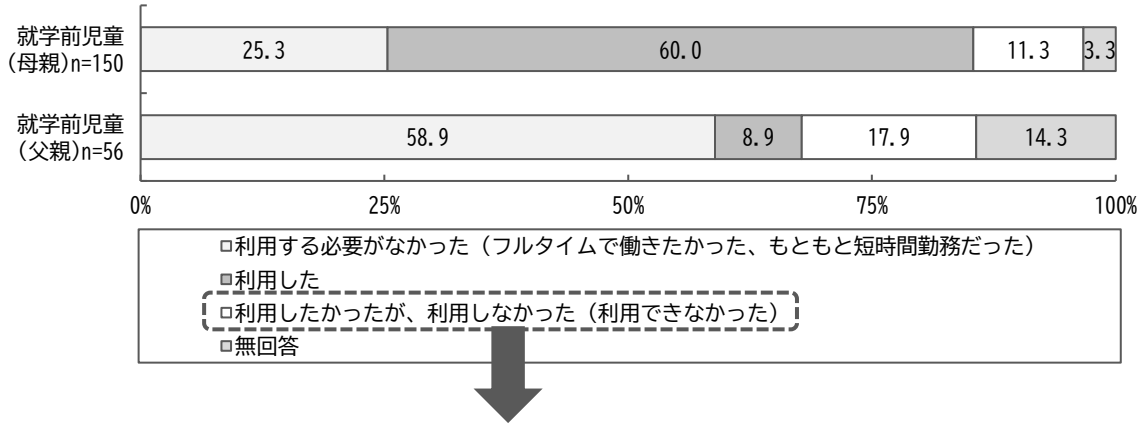


（３）短時間勤務制度の利用状況

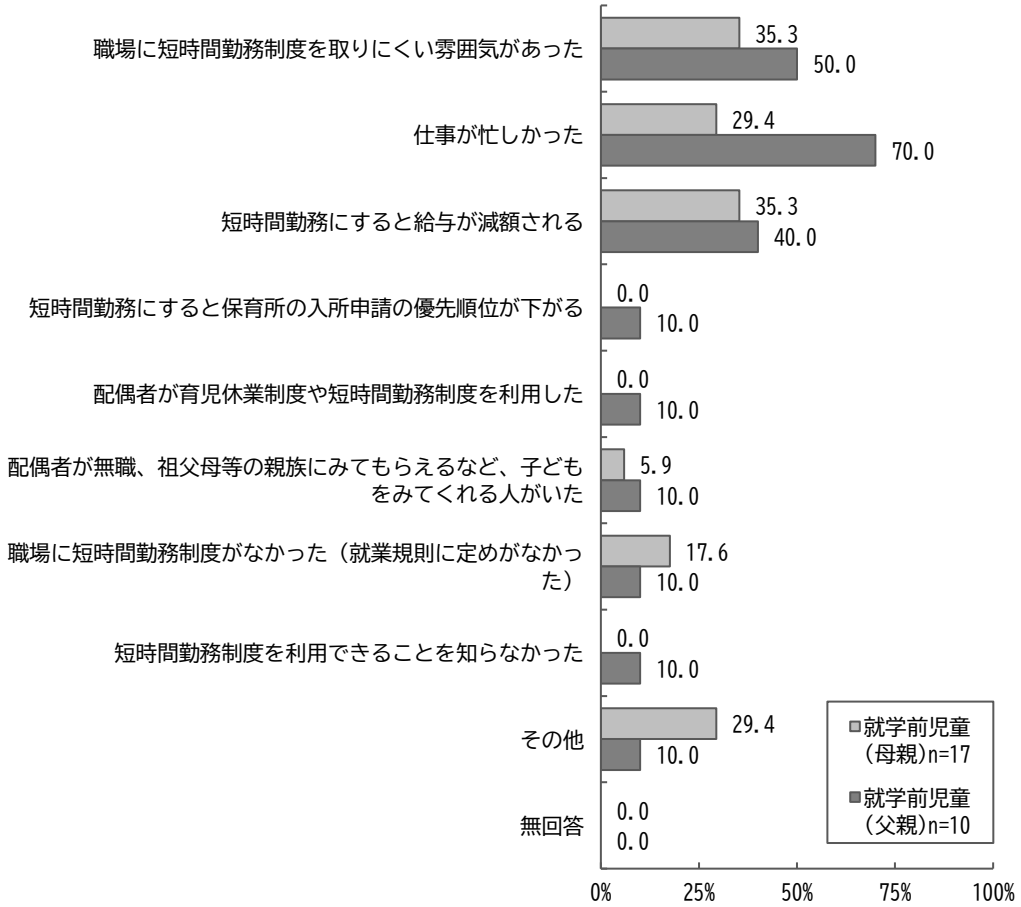
○職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親では、「短時間勤務制度を利用した」（60.0%）となっています。父親では8.9%に留まっています。

○職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由をみると、母親では「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」「短時間勤務にすると給与が減額される」（各35.3%）、父親では「仕事が忙しかった」（70.0%）が最も高くなっています。

問29-7　職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況



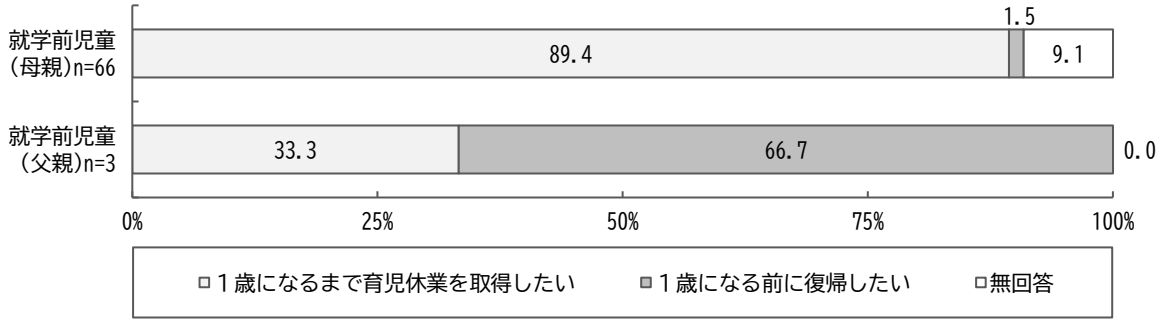
問29-8　短時間勤務制度を利用しなかった理由



（４）育児休業取得期間の希望

○１歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望をみると、母親では「１歳になるまで育児休業を取得したい」が約９割、父親では約３割となっています。

問29-9　1歳になったときに預け先が保障される場合の育児休業取得の希望

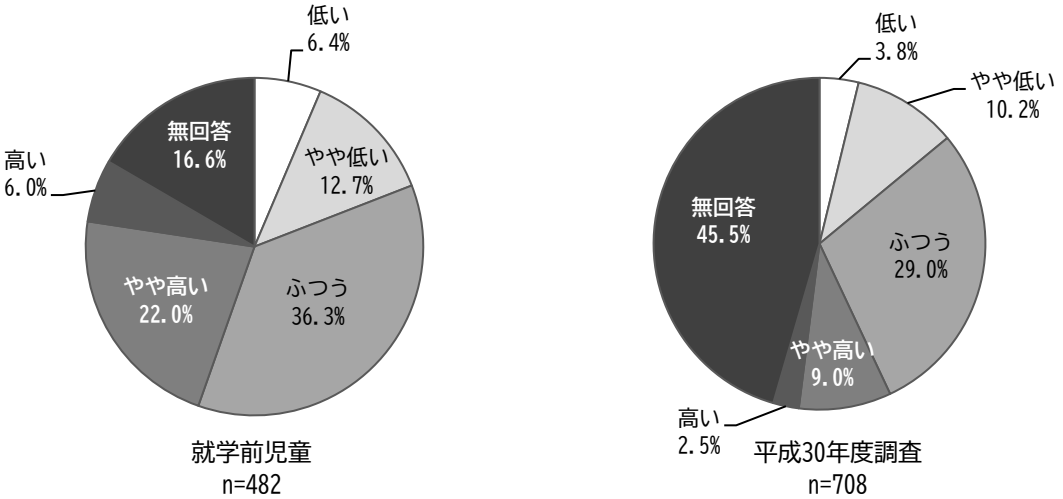


（５）子育て環境や支援の満足度

○愛西市において、「子育ての環境や支援に対する満足度」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、28.0%となっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、19.1%となっています。

○前回調査と比較すると、すべての項目で割合が増加しています。

問30　愛西市における「子育ての環境や支援に対する満足度」



２　育児休業制度の利用状況における分析、課題

結果１　育児休業を取得または取得中の就学前児童の母親は49.2%、父親は12.7%

就学前児童保護者の育児休業の取得率は、母親が49.2%、父親が12.7%となり、前回調査と比較すると、母親では14.0ポイント、父親では9.3ポイント増加しています。

母親の育児休業取得期間についてみると、実際の取得期間、希望取得期間ともに「１歳～１歳半未満」（41.3%、26.7%）が最も高くなっています。また、３歳以上の長期期間では、実際の取得期間（0.7%）より希望取得期間（22.0%）の割合が上回っています。

育児休業を取得していない理由は、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が33.9%となっており、前回調査同様最も高くなっています。それ以外では、前回調査において18.1%であった「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が21.0%に増加し、一方、前回調査で1.1%であった「収入減となり、経済的に苦しくなる」は4.8%と増加しています。

父親では「仕事が忙しかった」（43.9%）が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（38.1%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（25.7%）が上位を占めています。【問29・問29（１）・問29-４】

▼

以上の結果から、子育て世帯への社会全体の意識の変化にともない、母親父親ともに育児休業取得率が前回調査時よりも高くなっていますが、一方で、育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢との差があることから、引き続き、希望の育児休業期間を取得できるような職場の環境づくりなど、経済的な支援を含めた、提供体制の確保が必要です。